

公民館

まちづくり・・・土台とその上に建てるもの

私が公民館長になったのは4年前でした。現役時代は「24時間戦えますか」と言わんばかりに仕事のことばかり考えていたので、「まちづくり協議会」の存在すらよく分からず、たまの休みくらいゆっくりしたいというのが本音でした。公民館長になってまちづくりについての意識が全く変わり、若い頃から何もせずについて申し訳なかったなあと思っています。

そこで、改めて「まちづくり」について考えてみました。

私の思うまちづくりは、現時点では「青谷に住んで良かった」「青谷に住んでいて楽しい」と思えるまちにすることだと思っています。人によって感覚はかなり違いますが、住みたくないということは、その人にとっては合っていないということでしょう。

そこで、私たち皆ができることは、「まちづくりの基礎＝土台」をつくることまでかなと思います。まちづくり協議会の構成員は1～2年で替わるので、本格的にまちをどうしようという感じにはなりにくく、取り敢えず1年間は頑張ろうとなります。私のように休みくらいゆっくりしたいと思っているかも知れません。「地区安全部会」「地区再生部会」「健康・体育部会」「福祉支援部会」の4部会は、どれも最低限できていないとまちづくりどころではないという土台です。しかし、土台ができていたら青谷に住みたいと思うかどうかは別問題ということです。幸い、山陰道が開通し、青谷かみじち史跡公園という観光の目玉もできました。ここから先は、私たち住民が住みよくて楽しい町をつくり上げる時代だと思います。自家用車を持たない人の交通、空き家や耕作放棄地の問題等は全国的な課題ですが、何とか、いいアイデアがほしいですね。

とくさんの畑日記

ジャガイモ植え付け 実験？

ジャガイモは、寒くても2月に植えてよいと聞いたので、2月24日に第1弾として1畝植えてみました。しかし、気温が上がらないと芽が出ないとも聞いていたので、試しに黒マルチで覆ってみました。植え付けてからも気温は上がりず、雨も多かったので土の中がどんなことになっているかちょっと不安でしたが、素人の私がやることなので、実験だと思って興味深く見守っていました。と言ってもマルチで全く見えないのですが……。



1畝だけした黒マルチ

そして迎えた3月21日。いい天気だったので、マルチを恐る恐る外してみました。結果は右の写真のとおり。もやしのような芽が出ているではありませんか!!この芽がどのように生長するか、しっかりと見届けたいと思います。次号ではこのもやしがどうなったかお知らせできるとおもいます。お楽しみに!!

※再募集・・・私の隣で野菜作りをする人は、まだ決まっていません。一応耕しておこうと思うので、夏野菜の苗を植える頃には誰か希望される方が出ることを期待しています。



もやしか？ ジャガイモの芽です

シリーズ 知っていただけ、青谷のこと？ 「あおや駅よこフリマルシェ」大盛況！ ここ、渋谷？



目を疑うような景色・・・青谷駅横の駐輪所です。渋谷かと思った・・・

「青谷さんぽフェス」や「青谷音楽祭」などで最近青谷が賑やかになってきたねとよく言われます。現在、そこで留まらず、新たな団体がまちを盛り上げようとしています。

3月22日(日)、青谷駅左側の駐輪場で、「あおや駅よこフリマルシェ」が開催されました。青谷駅は無人駅になってしまいましたが、単なる列車の乗降場所になるのはもったいないと考える有志が集まって、フリーマーケットや食事の提供などをして賑やかに過ごしました。

何人集まるか不安でしたが、約600人の来場者があり、最高に盛り上がりました。シンチャオ！ふわつとカフェのブースでは、ベトナムから働きに来ている方がボランティアとして参加してくださり、華を添えました。「レコード盤のレコードを聴こう」のブースでは、かぐや姫やスピッツなどの曲が流れ、我々のような昭和世代だけでなく、なぜか令和の若者にも受け入れられたのが不思議でした。

今回のイベントは、素人の有志が集まって初めて取り組んだことですが、こんなに盛り上がり素晴らしい会になるとは予想していませんでした。チャレンジしてみるものですね……



めっちゃ明るいベトナムのボランティアスタッフ

おわりに

百聞は一見にしかず・・・写真を見れば、「あおや駅よこフリマルシェ」がどんな感じかすぐに分かるでしょう。このイベントは、青谷駅を活用することによって、地域やコミュニティの力を高めようというねらいで企画されたものです。私はお助けスタッフとして、後から呼ばれて関わってきました。そこで強く感じたのは、事業を成功させるには、①出店者や協力者等との良い人間関係②SNS等をフルに活用した広報です。ベトナムの方とは事前にしっかり話をし、『明るく飲み物を提供すること』を徹底、当日は、ご覧のような楽しい雰囲気できました。SNSは、鳥大生の小谷峻一さんが20日前からカウントダウンしながら情報発信していました。だから、来客者の半数近くは町外から来られていました。令和の現代にマッチした事業運営でした。